

令和4年度 港中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3 年	学校	89	54	32	38	10.2	24.0	5.9
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
4月19日	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	84	45.0	47.6	41.7	49.4	40.4	15.1	1.5	11.9	6.8	9.5
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	55.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
	大阪府	—	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1

※ 3年生の理科はC問題を選択

令和4年度 港中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞全国と比較して、「話すこと・聞くこと」領域において18.6pt低く、「書くこと」領域において16.2pt低く、「言葉の特徴」領域において17.7pt低い結果となり、「読むこと」領域において15.7pt低い結果であった。

＜数学＞全国と比較して、「数と式」領域において25.9pt、「資料の活用」領域において16.3pt、「関数」領域において12.1pt、「図形」領域において17.4pt低い結果であった。

＜理科＞ 全国と比較して、「エネルギー」を柱とする領域において10.1pt、「粒子」を柱とする領域において14.9pt、「生命」を柱とする領域において14.8pt、「地球」を柱とする領域において8.3pt、低い結果であった。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

大阪府と比較しての平均点が、国語は8.8点、社会は7.8点、数学は14.3点、理科は6.5点、英語は13.8点それぞれ低かった。平均無解答率は社会が1.5%で大阪府の4.6%を3.1%上回る結果であった。

＜課題＞

数学科において、「数と式」の問題の平均点が大阪府が19.7点であるのに対し4点低い15.7点であった。基礎的な知識・理解でのつまづきが課題であった。

令和4年度 港中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から